

創立100周年記念誌

山 靈 生 英 傑

さんれいえいけつをうむ

平成13年(2001)

長野県木曾山林高等学校

題字「山靈生英傑」伊沢修二書

右以外の筆字 今井弘幸（43回）

扁額・絵画（一部）・工芸品写真撮影

清沢写真事務所



「山靈生英傑」

(山靈英傑を生む)
さんれいえいけつ

伊沢修二書 扁額 本校蔵

これは伊沢修二が、本校創設を記念して揮毫されたといわれている扁額である。本校に学ぶ者に、都塵を排し、自然と一体となつて山に生き、山の魂にふれ、有為な人材に育つように諭しておられる。

爾来一世紀、たえず教職員はじめ生徒の目にふれる所に掲げられ、ここに学ぶすべての者の座右の銘となった。校門脇の自然石に刻まれた「山を愛す」の碑と共に、本校の心である。

この度、一〇〇周年記念誌を編纂するにあたり、山に学び山靈に育まれた若者たちの足跡を尋ね、二十一世紀を展望した。こうした中で本校一〇〇年を表す、最も相応しい言葉として「山靈生英傑」に至り、本書の書名とした。

伊沢修二(一八五一―一九一七)は、高遠藩士の家に生まれ、アメリカ留学等によつて、広い見識を養い、わが国学校教育の黎明期に大きな貢献をした。小学校課程に唱歌を採用するなど、特に音楽教育に尽力した。東京芸術大学の前身、東京音楽学校の初代校長を務めた近代教育の開拓者である。



大日本山林会幹事長田中芳男書（明治40年11月6日）



昭和38年10月、校舎の全面改築を記念して「山を愛す」の碑が建立された。
改築期成同盟会長の中村治郎蘇門会長（16回）が、揮毫した。

校 歌

吉岡郷甫 作詞
松村伍鹿 作曲

mf

くもいにそびゆるみたけのふもと
はさまにかよえるきそじのほとり

f

せんしゅうかわらぬみどりをこめて
ごぼくはおいたつみくにのはやし

校 歌

作詞 吉岡郷甫
作曲 松村伍鹿

- 一、雲井に聳ゆる御殿のふもと
峽間に通える木曾路のほろろ
千秋変らぬ緑をこめて
五木は生い立つみ國の林
- 二、み國の五木は我等をかこみ
左手に書取り右手には鉄を
朝夕はなきぬ我等のために
示やう挽まぬ雄々しき姿
- 三、乞う見よ我等が樹藝の力
赤裸の山にも真木生い立てば
木蔭に玉噴く泉も湧きや
荒ぶる川の瀬流れはわむ
- 四、濁らぬ蘇水と我等のかがみ
直なる檜と我等の乾に
み國に盡すと心となりや
地ゆまず勵まん学びの業を
(大正三年六月制定)

校 旗



新校旗（平成6年より）



旧校旗（大正4年より）

歴 代 校 長



初代 松田力熊校長
明治34年5月～40年9月



2代 江畑猷之允校長
明治40年9月～大正1年8月



3代 安藤時雄校長
大正1年8月～3年10月



4代 七宮純雄校長
大正3年10月～9年3月



5代 岡部喜平校長
大正9年3月～昭和6年3月



6代 中村三郎校長
昭和6年3月～8年11月



7代 高久常敬校長
昭和8年11月～12年9月



8代 石田恭吾校長
昭和12年9月～17年11月



9代 渡邊 勇校長
昭和17年11月～23年 9月



10代 横内鎰男校長
昭和24年 4月～29年 3月



11代 古屋 清校長
昭和29年 4月～34年 3月



12代 上條善昌校長
昭和34年 4月～39年 3月



13代 巢山武雄校長
昭和39年 4月～41年 3月



14代 鷹野貞雄校長
昭和41年 4月～43年 3月



15代 今井邦男校長
昭和43年 4月～48年 3月



16代 芦部隆彦校長
昭和48年 4月～52年 3月



17代 牧野嘉雄校長
昭和52年 4月～54年 3月



18代 清水吉平校長
昭和54年 4月～56年 3月



19代 古川彦次校長
昭和56年 4月～58年 3月



20代 橋渡良知校長
昭和58年 4月～62年 3月



21代 二木重光校長
昭和62年 4月～平成 3年 3月



22代 柵原満雄校長
平成 3年 4月～ 7年 3月



23代 一條春雄校長
平成 7年 4月～ 9年 3月



24代 永田勝男校長
平成 9年 4月～11年 3月



25代 宮崎胤門校長
平成11年 4月～12年 3月